

お忙しくても、約 2 分間で読めます

山内公認会計士事務所

ハートフル・ワード (心からの言葉)

TEL 098-868-6895
FAX 098-863-1495

経営者への活きた言葉

会社は腹を決める (改正高齢者雇用安定法) 宮原 耕治 (日本郵船会長)

1. 会社でも元気な 60 代が増えてきた。このパワー、活力を使わないと、もったいない。彼らの持つ専門的な知識や技術、経験、人脈は大いに活用されるべき。年金の支給開始が段階的に 65 歳まで引き上げられるため、企業による雇用延長は社会的にも重要だ。一方では問題もある。日本の企業はかつてのような高度成長が見込めず、「希望者は一律全員雇用」といわれても、健康面や勤務態度も人それぞれで、中には引き続いての勤務に堪えない人もいる。
2. 高齢者の働き方について、一つはプロとしてのシニア。専門の知識や技能を持つ人たちだ。第一線でバリバリ働いてもらう。も一つはスタッフとしてのシニア。アドバイザーとして豊富な経験に基づく助言を若者に与える。これらを一人ずつ見て、本人に最適な仕事をしてもらうよう、きめ細かく対応しなければならない。
3. 企業としては、定年の延長や廃止までは、なかなか踏み切れない。だがこの法改正で、会社が 65 歳まで雇用する腹を決めざるをえない。
(参考:「週刊東洋経済」2013 年 1 月 26 日号)

経営者のための理念・哲学

正直な労働

1. 1839 年に生まれ、TOTO、日本ガイシ、ノリタケなどの母胎となった森村グループを創業した森村市左衛門は、明治 40 年、60 歳の時に次のような談話を発表している。
2. 「人は正直に全力を尽くして、一生懸命に働いて、天に貸してさえおけば、天は正直で決して勘定違いはありません。人ばかりを当てにして、人から礼を言われようとか、ほめられようとか、そんなケチな考えで仕事をしているようでは、決して大きなものにはなれません。労働は神聖なもので、決して無駄になったり骨折り損になどならない。正直な労働は枯れもせず腐りもせず、ちゃんと預ってくれる。どしどし働いて、できるだけ多く天に預けておく者ほど大きな収穫が得られる」。現代は損得を基準に生きている人が多いが、昔の人は尊徳を基準に生きていたのだ。
(参考:「致知」: 2013 年 4 月号)

経営者のための危機管理

危ない会社の見分け方

1. 倒産する会社は、必ずその予兆や危険信号を出しているものである。基本的にそれは、「ヒト」「モノ」「カネ」の三つに分けられると認識してほしい。まずは「ヒト」だが、中小企業は「社長=会社」。面談などを通じ、社長が信用できそうな人なのかを見極めることは重要だ。ハッタリの強い性格で強気な計画を立てていたり数字に弱いならば要注意だ。次に「モノ」だが、製品やサービスがいつの間にか時代に取り残されていないかチェックする必要がある。
2. さらに、主力仕入先が手を引いたという噂が出ているようなら要警戒だ。また、大手企業を取引先に持つ企業といえども、今の時代、安心できない。最後に「カネ」である。倒産した企業を見ると、倒産前に取引先へ支払い条件の変更や延期要請をしているケースが多い。また、金融機関との良好な関係が、いざというときの命綱になることは昔も今も変わらない。
(参考:「週刊ダイヤモンド」2013 年 1 月 26 日号)

古典に学ぶ

真理は固定したものではない

「道の道とすべきは、常の道にあらず。名の名とすべきは、常の名にあらず。無は天地の始に名づけ、有は万物の母に名づく」

(解説) 万物は流転する。それが宇宙の根本法則であり、普遍存在としての「道」の運動形式である。この転変する巨大な動きのなかであって、人間の私意がなにほどの力を持つのだろうか。むしろ進んで変化のなか身を投じ、必然の動きに順応し、一体化せよ。そこに限りない自由の境地がひらけるであろう。物事をすべて変化においてとらえる。これが老子の世界観の出発点であった。

(参考: 奥平卓・大村益夫訳「老子・列子」: 徳間書店)